

特35

849

御嶽講社規約

館書圖京東

函六一 門新

架四 部四一

號九七九 類二

014641-000-6

特35-849

御嶽講社規約

今井弘刊

M6

ABB-1072





御嶽講社規約



御嶽講社規約

第一條

一 三條ノ大旨ヲ謹テ遵奉シ時々説教ヲ拜聴シテ  
一 三條ノ大旨ヲ謹テ遵奉シ時々説教ヲ拜聴シテ  
一 三條ノ大旨ヲ謹テ遵奉シ時々説教ヲ拜聴シテ

第二條

嶽大神ヲ拜禮シ寶祚無窮ヲ祈リ御政思ヲ  
嶽大神ヲ拜禮シ寶祚無窮ヲ祈リ御政思ヲ

第三條

一 五倫五常ノ道ヲ守リ産業ヲ勵ミ國益ヲ計ルベシ  
一 五倫五常ノ道ヲ守リ産業ヲ勵ミ國益ヲ計ルベシ

第四條



特 849





一 社中同胞ノ如ク親睦シ憂喜ヲ共ニシ（遺棄孤獨及）  
廢疾貧窮ト成者ヲ惠育シ其他非常ノ災難ヲ救助  
シ家名断絶セントスルヲ保全シ且廢家再興新家  
取立等總テ深切ニ集議シテ協力スベシ

第五條

一 小兒養育行届難キ者アラハ適宜ノ方法ヲ以テ救  
助シ善良ノ人トナル様教養スベシ

第六條

一 異端邪說ヲ信ズベカラザルハ勿論怪シキ風説等  
ハ人ヲ惑スヲ以テ妄ニ談ズベカラズ

第七條

一 祈禳ノ節燎上中座火渡リト唱へ謂レナキ所業致  
シ愚民ヲ誑惑セサル様注意スベシ

第八條

一 妄リニ神託ヲ説キ神符ヲ授與スベカラズ

第九條

一 此社へ新夕ニ列セント乞フ者アラハ此條約ヲ守  
ルベキヲ誓約シテ後姓名ヲ記シ捺印ヲナシムベ  
シ

第十條



一 社中人員ノ姓名簿ヲ製シ姓名住所年月日ヲ詳カ  
ニ記シ置キ若退社ヲ乞ハバ其由ヲ記シ置ベシ

第十一條

一 社中首名義

教長 社長 副社長 分社長

結社 取締 講監 講元 副講元

大世話 世話 世話 世話

第十二條

一 社中ノ諸務ヲ擔當スル者ハ集議シテ人撰ヲナ  
ベク最モ講社長ノ外首員ヲ置ク一時宜ニ隨ヒ増

減アルベシ

第十三條

一 社中ノ者遠地隔絶ナルハ最寄世話ニテ諸事不  
都合無キ様取計フベシ

第十四條

一 社中ノ者家業ノ餘暇教導職ヲ請ヒ説教ヲ聽キ人  
道ヲ辨知スベシ

第十五條

一 社中孝子貞婦義僕ノ者アレハ賞譽ニ最寄神道事  
務分支局ヘ揭示ヲ乞ヒ復本分講社ヘモ掲表ニ神



道事務局へ御届申ベシ

第十六條

一 社長及首員タル者若此條約上ニ於テ怠惰アラバ速ニ之ヲ告ベシ告ル片ハ速ニ改ムベシ又社中ノ子弟及僕婢其父兄主人ノ訓誨ヲ守ラズ言行道ニ背ク片ハ社中ニテ之ヲ戒諭シ從ハサル片ハ社長能懇諭スベシ

第十七條

一 入社ノ者敬神共議ノ者ヲ以テ金錢品物多少ヲ不論漸次ニ累積シ社中運用シテ説教救助其他社費等ニ充テ月々出納ノ清算簿ヲ製シ社長相違無キ證印ヲナシ備へ置キ社中ノ者閱見スルヲ自由タルベシ

第十八條

一 神道大教院御祭典ニハ世話楯以上一同參拜スベシ尤遠隔ノ所ハ其地方神道中小教院御祭奠ニ參拜スベシ

但要事ヲ闕キ參拜ハ宜シカラスト雖モ可成丈厚ク心楯ベシ

第十九條



一社中子弟ト雖氏祭禮開扉等ニ托シ妄リニ日ヲ費  
シ破産ノ弊ナキ様注意シ社中事故アリテ集會ス  
ル片ハ酒肴ノ設ケ等堅ク禁ズベシ

第二十條

一皇漢西洋ノ書籍ハ勿論新發明ノ器械ヲ始メ諸新  
聞紙ヲ備へ置キ社中ニ縦覽セシム最モ講社場所  
外へ持出ルヲ許サズ

御嶽講社

大小印 二顆

明治六年十一月御届  
同月 出版

東京第四大区二小區  
猿樂町十番地  
出版人 今井 弘



天德堂藏

西曆一千九百零九年

八月

廿九日

天德堂

藏

同

月

西曆一千九百零九年八月廿九日



